

## 令和5年度 第6回 政策調整会議 会議録

- 
- ◆開催日時：令和5年10月24日（火） 10：00～10：52
  - ◆開催場所：第2委員会室
  - ◆出席委員：堤副市長、波積副市長、大下教育長、西川総合政策部長、残総務部長、寺本財務部長、藤浪教育次長、片山学校教育部長、牟田生涯学習部長
  - ◆説明者：田中企画課長、高井政策担当主幹、上田主任、上担当員、井出生涯学習課長、柿花教育総務課参事
- 

### ◆審議事項

第3期岸和田市教育大綱の策定について・・・・・・・・・・・・・・・・・・総合政策部企画課⇒承認

---

### ◆審議概要

◎付議依頼書等に基づき説明

◎説明後、質疑応答

〈堤副市長〉基本方針2①「基礎的・基本的な学力の定着」は、総合計画の重点目標にも挙がっており、体力の向上と合わせ、岸和田市ですっと言われている課題である。岸和田市を、住みたい・住み続けたいと言われる都市にし、人口を増やそうとする際に、教育・子育ての環境の充実は、市として最重要課題だと思っている。来年度、大綱に基づき「岸和田市教育重点施策」を策定するが、具体化に向けた取組をぜひともお願いしたい。基本方針1③「保・幼・小の連携の強化」について。学力の課題に対し、本方針は非常に重要。義務教育開始前後の「架け橋期」、教育の継続性と連続性が重要だと常々思っている。

基本方針8③「郷土愛の育成」について。岸和田の新たな文化の創造・発展、観光への活用のためには、郷土愛を育成し、食文化を含め、日常生活の中で伝統・風土を育んでいくことがポイントになる。基礎がなければ売りにならないので、基礎を育めるよう努めてほしい。

〈波積副市長〉大綱の中身は適切であるため、うまく前に進められたい。前に進めるため留意してもらいたいのは、岸和田の資源だけを使わないこと。学校以外の進んだ教育メソッドを現場に入れてもらいたい。陰山メソッドの陰山先生の話では、こどもの段階から「できたね」と褒められることが大事とのこと。こども達が「できない」ではなく「できた」という気持ちを持てるような取組をこの方針に従って進めてもらいたい。

岸和田市において残念なのは、学力もそうだが、体力が平均より下だということ。体力は特に大事なので、取組をぜひ前に進めてもらいたい。

基本方針8について、過去の歴史と断絶した文化を創ろうとしてもなかなかうまくいかない。岸和田市には岸和田城をはじめ豊かな文化資産があるので、その延長線上に創造的なものをつくること、文化・伝統という基礎があった上で前に進めることをぜひ意識し、現場での具体的な活動を進めていただきたい。

〈教 育 長〉教育方針が大きく変わるのはいくつかないので、基本的には第2期教育大綱を踏襲しながら新しいものを取り入れている。各教育委員の発言も活発で、様々な意見をいただいた。これからの市の発展にとって教育・子育ては重要であるという観点から、市長と教育委員会の双方で再確認できたのではないかと考えている。今後、重点施策等を策定し具体化を図っていきたい。

〈財 務 部 長〉第2期と第3期に大きな変化はなく、第2期に新たな課題を取り入れた内容が第3期であると理解している。先ほど堤副市長からもあったが、小学校に入る前からの教育が大事であることはそのとおり。それをベースに、いくつか気になった点があったのでお話ししたい。

まず1点目、「教育の現状と課題」の「少子高齢化のさらなる進展が予想される」の部分について。「進展」という言葉は適切か。進展は進歩・発展のイメージが強く、少子高齢化はこれからの社会で大きな課題になってくることなので「進行」の方が適切な表現ではないか。

2点目、基本方針2②「活用する力の育成」について。「児童・生徒がこれからの社会で求められる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など）を身に付けられるようにするため、探究的な学習を充実させるとともに、1人1台端末を活用した指導を推進します」とあり、ICT等をベースにこども達的能力を育成するということであるはずだが、端末を活用する力を育成するように読めてしまう。

3点目、方針2③「特別支援教育の充実」について。本市においては課の名前や条例は全て「障害」を使っているが、大阪府では「障がい」を使っている。本市の統一した文字の使い方において、ここだけ平仮名を使っている整理が必要だと思う。

4点目、基本方針3③「生徒指導の推進」について。第2期には「不登校」という言葉があるが、第3期にはない。教育的な観点から、不登校には引き続き力を入れていく必要があると聞いている。3期で言葉を外した理由は何か。

5点目、基本方針3⑥「夢や志を育むキャリア教育の推進」について。「児童・生徒が地域社会の担い手としての意識を育み、将来にわたって自分らしい生き方を実現できるようにする」とあるが、こども達は地域社会の担い手にならなければいけないのか。大切なのは将来にわたって自分らしい生き方が実現できる、こどもの個性を伸ばすことである。もちろん、これからの社会を担ってもらわなければならないが、行政が策定する大綱に記載することは適切か。

6点目、基本方針4②「健康管理の充実」について。「児童・生徒の心身の健康を保持・増進させるため、関係機関と連携」とあるが、根本は家庭ではないか。第2期には「家庭」とあり、第3期の基本方針4③「体力の向上」にも「家庭」という言葉があるが、今回当該項目から「家庭」をとった理由は何か。

7点目、基本方針5⑤「教職員の指導力の向上」について。「教職員の専門的かつ実践的な指導力を養う研修」について、もちろん専門性は大切だが、専門性以外の部分がより重要。教職員は、直接こどもと対峙していることから、より実践的あるいは人間としての心の温かみこそが大事なので、そういった内容を記載してどうか。

最後に。今後、第2期のフィードバックを今後教育委員会でも議論されると思うが、項目ごとにきめ細かい検証ができると良い。

〈政策担当主幹〉ご指摘の4点目の基本方針3③の「不登校」や6点目の基本方針4②の「家庭」等の

文言については、文章を簡素化する意味合いもあり記載していないが、取り組まないということではない。

〈学校教育部長〉基本方針3③については、「児童・生徒の自発的な成長・発達を支える」ということに重きを置いて記載している。生徒指導は、煙草を吸うなどの問題行動への指導はもちろん、こども達のこれから伸びようとする力、発達を支持し、自己有用感を伸ばし、こども達同士で地盤をつくっていきけるようにすることが本来の機能。「教育の現状と課題」の部分で、生徒指導の面から「厳しい実態にあるいじめへの対応や、国の水準を上回る不登校と暴力行為の改善が大きな課題となっています」と記載している。ここに記載することにより、市として、学力といじめや不登校、暴力行為の改善が大きな課題であるとしている。今後策定する「岸和田市教育重点施策」において、不登校についてしっかり書き込んでいく予定。

ご指摘の7点目の基本方針5⑤「教職員の指導力の向上」について。専門的・実践的な指導の上でももちろん人間的な部分は必要であり、研修を行うにあたりその観点も抜け落ちることのないようにしていくということで、現状の内容に包含されていると認識している。

基本方針2②「活用する力の育成」について。「今後の社会でこれからの社会で求められる資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力など）を身に付けられるようにするため、探究的な学習を充実させる」としており、探究的な学習とは、児童・生徒自らが課題を設定し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、周囲の人と意見交換・協働したりしながら進め、何らかの形で外部に発信していくという流れのこと。それらを通じて力を養うということで、その際に1人1台端末があり、意見交換や資料収集がしやすいので、その活用を通じて探究的な学習を充実させるという意味で書いている。

〈財務部長〉よくわかった。

〈教育長〉基本方針3⑥「夢や志を育むキャリア教育の推進」の「児童・生徒が地域社会の担い手としての意識を育み、将来にわたって自分らしい生き方を実現できるようにする」について、両方大事だと思っている。主権者教育は、議会でもさかんに言われている。こども達の地域への関わりに対する認識が低く、投票率が伸びないことが非常に問題視されている中、そのような内容もぜひ入れたいと思い、並列して記載している。基本方針4②「健康管理の充実」について。前の修飾を除き「関係機関」としたが、確かに関係機関に家庭は入らないので「家庭や関係機関と連携」としても良いのではと思う。

〈教育次長〉そうなるとほとんどの項目に家庭が入ることになる。そのバランスは考えなければいけない。

〈教育長〉健康の維持、体力の向上はまずは家庭なので、ここに家庭を入れるのはふさわしいと思う。

「障がい」は第2期でも平仮名表記としている。

〈教育次長〉「進展」の意味として、第一義的には、事態が進行し新たな局面が現れることで、第二義的な意味として、物事が進歩、発展することとある。ただ、一般的に好転するほうに受け取られる側面もある。

〈堤副市長〉大綱はここまで詳細ではなく、市長の教育に対する考えの大枠を教育委員会に提示し、

それに基づき教育委員会で年度ごとに策定する「岸和田市教育重点施策」に具体的に書き込むということで良いのではないかと。同じ作業の繰り返しは職員の業務の負担になる。第4期に向けて是非議論してほしい。

- 〈波積副市長〉大綱なのに細かいという印象を受けた。無駄な仕事はなるべく削るべきなので賛成。たしかに大綱の内容及び手続きは簡素化、適正化していくほうが良い。
- 〈教 育 長〉総合教育会議でも委員からご指摘があった。「細かすぎるのではないかと、この大綱を受けて書くのが『岸和田市教育重点施策』なので、大綱はもっと簡素化してよいのではないかと」との問題提起をいただいた。事務局にも非常に負担をかけて細かすぎる。また、教育重点施策との違いが明確でないので次回に向けて改めて考える。
- 〈総 務 部 長〉「将来ビジョン・岸和田」の表記方法について統一する方が良い。また、「教育の現状と課題」の冒頭の文章で「社会」が重複しているため修正されたい。家庭が原点であることはそのとおり。生活の乱れが学力の低下につながることもあり、学校や教師だけでどうにかできる問題でもないのと、他自治体の事例があれば参考にしても良いのではないかと。
- 〈総合政策部長〉今回の会議での意見を踏まえ、修正を加える場合は行い情報共有する。また、第4期に向けた大綱の内容及び手続きの簡素化、適正化については議論する。本案件について、原案を一部修正のうえ、政策決定会議に諮ることとしてよいか。

【異議なし】

⇒本件、原案を一部修正のうえ承認し、政策決定会議に付議する。

令和5年 10 月 19 日

## 政策調整会議付議依頼書

依頼者名 総合政策部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

### 記

付議事項名	第3期岸和田市教育大綱の策定について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に則り、令和6年度からの第3期岸和田市教育大綱の策定を行っています。総合教育会議における市長と教育委員会の協議・調整を経て、「第3期岸和田市教育大綱」の素案をまとめましたので、パブリックコメントを実施するにあたり、付議を依頼するものです。
説明者	企画課長 田中 浩二、同課担当主幹 高井 大都 同課主任 上田 孝久、同課担当員 上 鈴代 生涯学習課長 井出 英明、教育総務課参事 柿花 真紀子
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

別紙

付議会議	令和5年度 第6回会議
付議事項	第3期岸和田市教育大綱の策定について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を策定することにより、円滑で効果的な教育行政の運営を目指す。

★総合計画上の位置付け

<b>1040302</b>	基本目標	岸和田の次世代を育むまち
↑ここにコードを入力 (コードは「将来ビジョン・岸和田(体系)」シートを参照)	個別目標	子どもの個性や能力が豊かに育まれている
	個別目標の方向性	③ 学校園の適正な維持管理や魅力ある運営を行う
	行政の役割	教育行政を円滑かつ効果的に運営し、活力ある学校づくりを進める

★現状と課題

総合教育会議における市長と教育委員会の協議・調整を経て、令和6年度からの「第3期岸和田市教育大綱」の素案をまとめた。今後、パブリックコメントを実施予定。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項	決算(見込額)		予算額	見込額					
	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
教育大綱に基づき、教育委員会において、教育重点施策を策定し、事業を実施予定									
財源内訳	国費								
	府費								
	起債								
	一般財源								
	その他								
事業費	計			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
			0	0	0	0	0	0	

★当該事項に関連する人員増の必要性\*

人員増の必要性			R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
有	無						

★取組の効果を表す指標

指標名	単位	R3年度	R4年度	R5年度	目標値				
					R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
①									
②									

※事業費及び人員を確約するものではない。